

2020年12月20日(日)

老球の細道582号

偉大なコーチ山崎先生の思い出 PART X III

バスケットボールコーチ 室井 富仁

◆7月25日(土)

今日も朝からゲーム。試合相手は昨日と同じでエバンズビル選抜チーム。ゾーンディフェンスを多く使うために、クリニックで練習したゾーンオフENSEを試すのに最適であった。私たちのチームディフェンスはもちろんオールコートマンツーマンプレス。

ディフェンスはスクリーンアウトが不徹底のために、相手チームにはセカンドシュートでやられすぎた。ゾーンオフENSEはショートコーナーを起点にして攻撃を試みた。パスのスピード、ギャップアタック、シュートの精度等が課題として見えてきた。

積極的にチャレンジしていればいつかはうまくいく。努力は報われるときもある。Aチームはラストゲームで念願の初勝利をあげることができた。今まで日本から来た男子チームは勝ったことがなかったらしい。私たちは何度も戦っているうちに僅差のゲームができるようになり、そして最後に勝つことができた。試合の結果は下記の通り。

会津B	36-50	エバンズビル選抜
会津A	50-63	〃
会津B	40-60	〃
会津A	75-65	〃

〈付記：この時の3年生は福島県インターハイ、福島県総体で優勝候補をアップセットで破り3位に入賞している。また1年生はちびっこながら、2年後にこれまた優勝候補のタレント軍団チームを県インターハイで撃破し3位に輝いた〉

試合の合間に、体育館の冷房から解放されたくて外に出て花を見ていた。すると一人の老人が遠くから声をかけてきた。芝生にあがっていたので注意されるのかと思ったら、日本語で書かれた小さな英単語帳を見せてくれた。英単語帳は太平洋戦争の沖縄戦で彼が殺した日本兵が持っていたものだという。手帳には「忠君愛国」「鬼畜米英」などが書いてあった。老人は目に涙を浮かべながら手帳を大事に携えていた。戦争の傷跡はいつまでも消えない。

最後の夜なので、夕食は大学の寮のホールでピザパーティーとなった。参加者、スタッフ全員が一堂に会してエバンズビル最後の晩餐会である。米国コーチ・オブ・ザ・イヤーのキャシー・ベネット(翌年インディアナ大学に移籍)の涙の熱いスピーチに皆感激。そして山崎先生の音頭でなぜか万歳三唱。そして更に先生独唱で米国の国歌斉唱。NBAの試合開始のセレモニーのようであった。さすがに山崎先生は役者である。カラオケ演歌か会津高校の校歌、応援歌、生徒会の歌(学而会歌)しか歌えない私とは格が違う。

長くて短かったエバンズビルでの生活、予想以上にすばらしく充実したものになった。改めて学校の反対に屈しないで実行したことに安堵した。明日は朝2時に寮を出るので、生徒たちは夜を徹して大学生や他校生と交流を深めたようである。

〈続〉